

令和8年度変更

土地改良事業計画変更概要書

県営東田沢地区 区画整理

(経営体育成基盤整備「一般型」) 事業

< 目 次 >

第 1 章	目 的	1
第 2 章	地域の所在及び現況	1
第 3 章	基本計画	10
第 4 章	工事又は管理の要領	17
第 5 章	換地計画の要領	18
第 6 章	費用の概算	22
第 7 章	効用	23
第 8 章	他の事業との関係	23
第 9 章	計画概要図	24

第1章 目 的

本地区は、十日町市の南部（旧中里村）、一級河川・清津川右岸の河岸段丘に位置する約30haの耕地であり、これまで周辺の地域では国営津南水沢開拓事業により20 a 区画に整備は行っているものの、本地区内は未整備のままであり農道も2.5m程度と狭幅であり作業機械の通行もままならず、現在の作業体系に即していないため非常に作業効率が悪く、営農に支障をきたしている。条件不利地を中心に農地集積が進んでいない地域である。

地区内の現況生産基盤は小規模なため、小型機械で作業せざるを得ない状況にある。また、用水系統においても、桔梗ヶ原頭首工より水源（水利権）は確保されているものの、周辺地域と同時に開拓事業を行っていなかったことから、未整備である地区内のほとんどが用排水兼用土水路であるために末端まで配水されず、慢性的な用水不足に悩まされている。更には、暗渠排水の施工もされておらず、いずれの耕地も排水不良や差し水等により湿田状態となっており、園芸作物の導入が実施されていない状況である。

以上のことより、安定した農業経営の実現と農地集積の加速化のために本事業の実施が急務である。

第2章 地域の所在及び現況

第1節 地 域

事業名	地 域
区画整理	新潟県十日町市東田沢、田沢本村、芋沢

第2節 地 積

（令和4年8月現在）

事業名	現況地目 市町村名	田 (ha)	畑 (ha)	道水路 (ha)	山林原野 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備 考
	十日町市	25.3 24.2	4.3 6.0	1.2	4.5 4.3	5.6 6.0	40.9 41.7	
計		25.3 24.2	4.3 6.0	1.2	4.5 4.3	5.6 6.0	40.9 41.7	

第3節 現 況

1. 気象

(1) 一般気象

観測所名	津南観測所	かんがい期	非かんがい期	計 又は平均	備 考
観測期間	1976年～2021年	5 月 ～ 9 月	10 月 ～ 4 月		
平 均 気 温 (℃)		20.4	4.0	11.1	2012～2021年
降 水 量	平 均 (mm)	828.6	1,211.3	2,039.9	〃
	基 準 年 (mm)	555.0	1,835.0	2,390.0	1973年 (1/10確率渇水年)
降水日数	平 均 (日)	67	122	189	2012～2021年
	基 準 年 (日)	68	130	198	1973年 (1/10確率渇水年)
根 雪 期 間	—			— 日間	※統計データなし
無 霜 期 間	—			— 日間	〃
最 多 風 向	南南東	最 大 風 速 (風向)		20.1 m/s (南)	最大風速発生年月日 2012. 4. 3

(2) 特殊気象

観 測 所 名 津南観測所	第 1 位			第 2 位			第 3 位			第 4 位			第 5 位			備考
観 測 期 間 1976年～2021年	数量	年月日	発生 確率	数量	年月日	発生 確率	数量	年月日	発生 確率	数量	年月日	発生 確率	数量	年月日	発生 確率	
最 大 日 雨 量 (mm)	192.5	2019. 10. 12	1/40 以上	174.5	2013. 9. 16	1/25 以上	156.5	2017. 10. 23	1/15 以上	147.0	1982. 9. 12	1/10 以上	139.0	1998. 9. 16	1/10 以上	気象庁統計データ
最大時間雨量 (mm)	62.0	2005. 9. 10	—	58.0	2005. 7. 30	—	55.0	1988. 8. 25	—	49.5	2016. 8. 2	—	46.5	2011. 8. 14	—	〃
最大連続雨量 (mm)	360.0	2012	1/10 以上	357.0	2011	1/10 以上	321.5	2010	1/7 以上	298.0	1980	1/5 以上	283.0	2014	1/5 以上	水文統計資料
最大連続干天日数 (日)	36	1987	1/50 以上	31	1984	1/30 以上	30	2018	1/25 以上	29	1978	1/20 以上	27	1992	1/10 以上	〃

2. 地形、地質及び土壌

(1) 地 形

本地区の地形は、標高372.10m～482.47mであり平均地形勾配は1/30となっている。

事業名	地目	田						畑・その他								受益地標高 (m)		備考
	傾斜 区分	1/1000 以下	1/1000 ～ 1/100	1/100 ～ 1/20	1/20 ～ 1/11.5	1/11.5 以上	計	3° 以下	3° ～ 8°	8°～15°			15° ～ 20°	20° 以上	計	最高	最低	
										8° ～ 10°	10° ～ 15°	8° ～ 15°						
区画整理	面積 (ha)	—	—	25.3 24.2	—	—	25.3 24.2	4.3 6.0	—	—	—	—	—	—	4.3 6.0	482.47	372.10	
	比率 (%)	—	—	100.0	—	—	100.0	100.0	—	—	—	—	—	—	100.0			

(2) 地質及び土壌

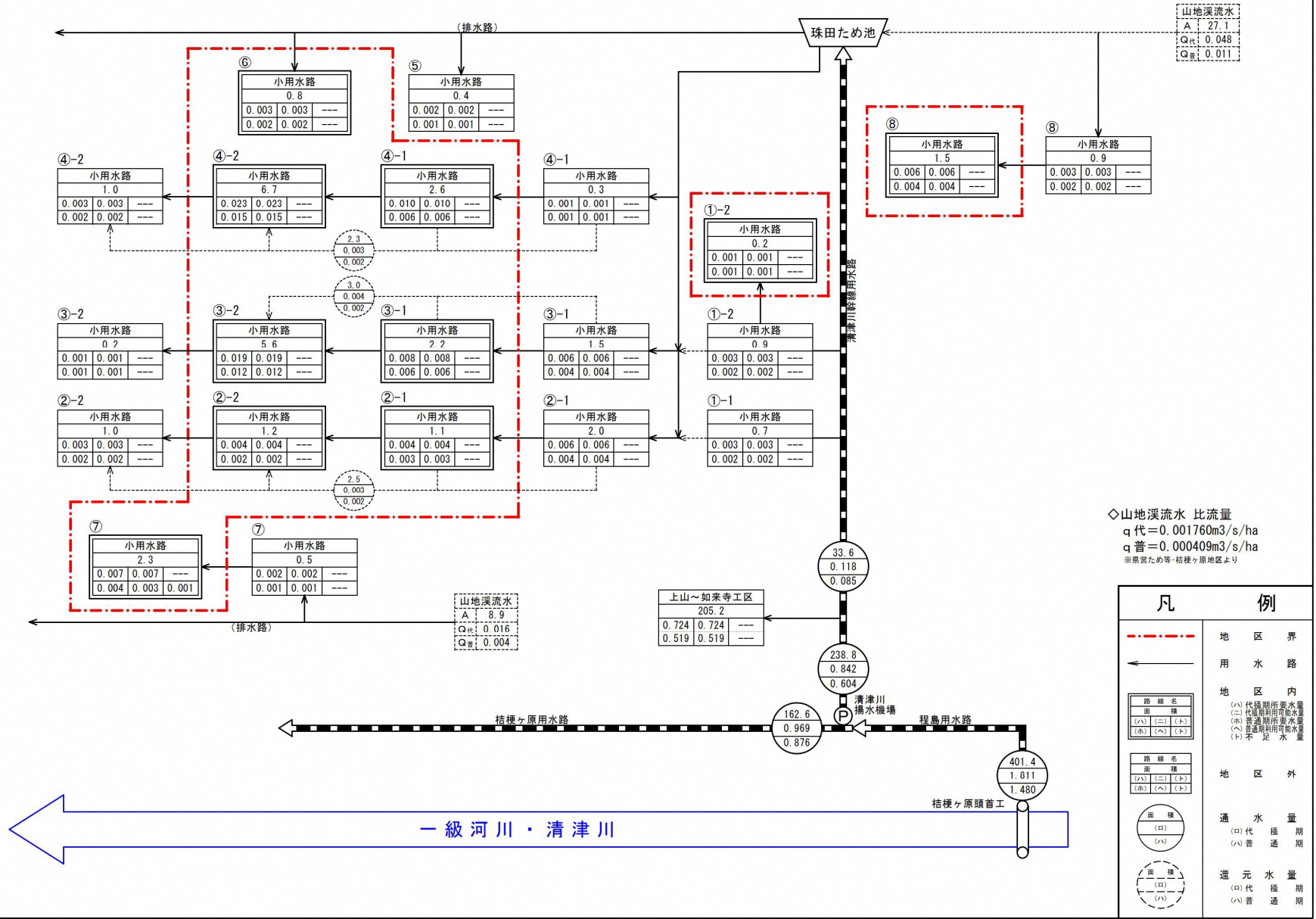
本地区の土壌はE40（グライ土壌－強粘土構造型）及びI81（黄褐色土壌－強粘土型）である。

3. 水利状況

(1) 用水状況（現況用水系統図）

本地区の用水系統は、一級河川清津川→桔梗ヶ原頭首工→清津川揚水機場→清津川幹線用水路→地区内となっている。

現況用水系統模式図



(ア) 取水方法一覧表

事業名	項目 施設名	か ん が い 面 積						計		水 利 権		慣行水利権		延べ取水量	備 考
		500ha 以上		500ha～100ha		100ha 未満									
	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	m³/s	箇所	m³/s	m³/s		
区画整理	貯 水 池	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	井 堰	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	自然取入口	—	—	—	—	1	33.6	1	33.6	1	0.118 0.085	—	—	0.118 0.085	
	揚 水 機	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	そ の 他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.076 0.047	渓流水他
合 計		—	—	—	—	1	33.6	1	33.6	—	—	—	—	0.194 0.132	

※水利権は、上段：代掻期，下段：普通期。

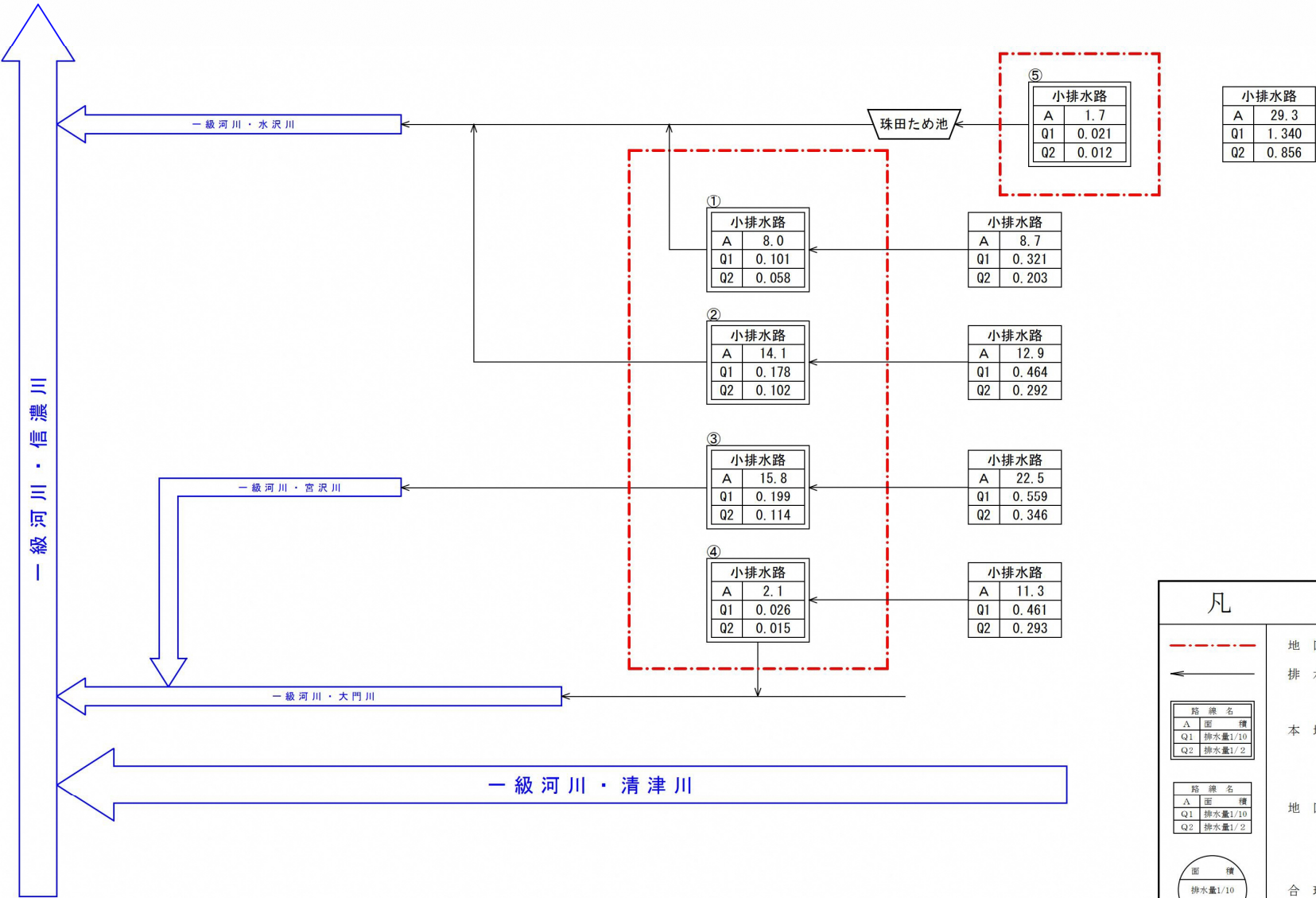
(イ) 改修を要する施設一覧表

事業名	項目 施設名	施設名 又は 箇所数	受益面積 (ha)	構 造	規 模	新設年 又は 更新年	改 修 を 必 要 と す る 理 由	備 考
区画整理	貯 水 池	—	—	—	—	—	—	
	井 堰	—	—	—	—	—	—	
	自然取入口	—	—	—	—	—	—	
	揚 水 機	—	—	—	—	—	—	
	用 水 路	小用水路	25.3 24.2	土水路、BF	L=4.1km	未整備	区画整理による改修及び廃止	
	そ の 他	—	—	—	—	—	—	
合 計		—	25.3 24.2	—	—	—	—	

(2) 排水状況（現況排水系統図）

本地区の排水系統は、地区内小排水路→沢を経て→一級河川・水沢川、宮沢川、大門川へ自然排水される。

現況排水系統模式図



凡	例				
	地 区 界				
	排 水 路				
<table border="1" data-bbox="1818 1134 1924 1206"><tr><td>路 線 名</td></tr><tr><td>A 面 積</td></tr><tr><td>Q1 排水量1/10</td></tr><tr><td>Q2 排水量1/2</td></tr></table>	路 線 名	A 面 積	Q1 排水量1/10	Q2 排水量1/2	本 地 区
路 線 名					
A 面 積					
Q1 排水量1/10					
Q2 排水量1/2					
<table border="1" data-bbox="1821 1235 1919 1307"><tr><td>路 線 名</td></tr><tr><td>A 面 積</td></tr><tr><td>Q1 排水量1/10</td></tr><tr><td>Q2 排水量1/2</td></tr></table>	路 線 名	A 面 積	Q1 排水量1/10	Q2 排水量1/2	地 区 外
路 線 名					
A 面 積					
Q1 排水量1/10					
Q2 排水量1/2					
<table border="1" data-bbox="1827 1332 1915 1410"><tr><td>面 積</td></tr><tr><td>排水量1/10</td></tr><tr><td>排水量1/2</td></tr></table>	面 積	排水量1/10	排水量1/2	合 理 式 日 雨 量 日 排 除	
面 積					
排水量1/10					
排水量1/2					

(ア) 排水方法一覧表

事業名	項 目 施 設 名		排 水 面 積						計		排水慣行 (m³/s)	現況排水能力 (m³/s)	備 考
			500ha 以上		500ha～100ha		100ha 未満						
	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha					
区画整理	自然	排 水 路	—	—	—	—	3	40.9 41.7	3	40.9 41.7	3.670	3.670	
		水 門	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	機械	排 水 機	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		水門及び排水機	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		排水路及び排水機	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
計			—	—	—	—	3	40.9 41.7	3	40.9 41.7	3.670	3.670	

(イ) 改修を要する施設の一覧表

事業名	項 目		施設名又は 箇所数	受益面積 (ha)	構 造	規 模	新設年又は 更新年	改修を必要とする理由	備 考
	施 設 名								
区画整理	自然	排 水 路	小排水路	40.9 41.7	土水路	L=0.8km	未整備	区画整理による改修及び廃止	
		水 門	—	—	—	—	—	—	
	機械	排 水 機	—	—	—	—	—	—	
		水門及び排水機	—	—	—	—	—	—	
		排水路及び排水機	—	—	—	—	—	—	
計			—	40.9 41.7	—	—	—		

(3) 河川状況
該当なし

4. 道路概況

本地区の道路状況は、一般県道・田沢水沢線が横断している他、1級市道・田沢東田沢線などの認定市道が地区内と接している。

5. 営農状況

農業生産は市場評価の高い「魚沼米」を主とした水稻栽培が大半を占め、生産基盤の状況が悪く、多大な労力を費やしている。併せて農業従事者の

高齢化と後継者不足の問題が生じ、担い手の確保が難しくなっている状況である。

第4節 地域環境の概況

1. 植物・動物等生態系の概況

令和3年10月7日に行われた『生き物調査』で地区内において、

魚 類【ドジョウ、キタノメダカ、モツゴ、タモロコ、ヨシノボリ、コイ】

貝 類【カワニナ、オオタニシ】

甲殻類【サワガニ、アメリカザリガニ】

両生類【トノサマガエル、ニホンアカガエル、ニホンアマガエル、ツチガエル】

昆虫類【ナミゲンゴロウ、マツモムシ、ハネナガイナゴ、オニヤンマ、ギンヤンマ、ナミアメンボ 他、全22種】

植物類【イヌタヌキモ】

が確認された。いずれも、河川、水路を生息・繁殖環境とする生き物である。

2. その他、地域環境の概況

本地区は、十日町市農村環境計画において、「豊かな田園・生産性農業エリア」、「環境保全型農業推進ゾーン」にゾーニングされている。また、農村集落とほ場と山地が隣接しており、自然環境が豊かな地域である。

第3章 基本計画

第1節 事業計画の要旨

1. 要 旨 30.7ha

本計画は、区画整理31.0haを施行し、労働生産性の向上を目指し、農地の集積・経営規模の拡大をするとともに高収益作物の栽培や機械の大型化による低コスト型農業を確立し、農業経営の安定化の実現に資する区画整備を実施するものである。

区画割りは、地区の形状および将来の営農体系等を勘案して、30～50a区画を基本とし整備を行う。道路計画は支線道路として全幅5.0m（有効幅員4.0m）の敷砂利舗装を基本とする。用水計画は、水管理の合理化、水路の維持管理労力の節減を図るために自然圧パイプライン方式でかんがいを行い、排水計画は開水路形式とする。

また、湿田解消のために暗渠排水を17.7haに実施する。

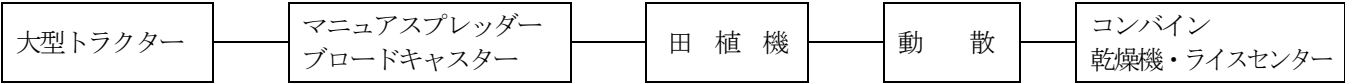
2. 事業別面積

事業名 土地利用 区 分 事業目的	区 画 整 理						計 (ha)	備 考
	水 田 (ha)	普 通 畑 (ha)	牧 草 畑 (ha)	道 水 路 (ha)	そ の 他 (ha)	小 計 (ha)		
区画整理	22.5 24.0	8.2 7.0	—	7.5 8.3	2.7 2.4	40.9 41.7	40.9 41.7	
計	22.5 24.0	8.2 7.0	—	7.5 8.3	2.7 2.4	40.9 41.7	40.9 41.7	

第2節 営農計画及び土地利用計画

1. 営農計画の概要

- a) 経営方式：水稲転作複合 水稲 ＋ えだまめ
- b) 経営組織：組織経営体と個別経営体による、効率的な複合営農の実現を図る。
- c) 作業体系：（水稲）耕起整地 → 基 肥 → 植 付 → 除草防除 → 収穫調製



2. 土地利用区分

事業名	土地利用区分	水田	普通畑	牧草畑	果樹園	茶園	その他	小計	道水路	山林原野	その他	計	備考
	区分	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	
区画整理	現況	25.3 24.2	4.3 6.0	—	—	—	—	29.6 30.2	1.2	4.5 4.3	5.6 6.0	40.9 41.7	
	計画	22.5 24.0	8.2 7.0	—	—	—	—	30.7 31.0	7.5 8.3	—	2.7 2.4	40.9 41.7	
計	現況	25.3 24.2	4.3 6.0	—	—	—	—	29.6 30.2	1.2	4.5 4.3	5.6 6.0	40.9 41.7	
	計画	22.5 24.0	8.2 7.0	—	—	—	—	30.7 31.0	7.5 8.3	—	2.7 2.4	40.9 41.7	

3. 環境との調和への配慮

本地区の保全対象種を「ドジョウ」として設定し、比較的、一年を通して水辺が残るファームポンド（既設利用の現況ため池）の一部空間を現況そのままの環境を残し、動植物の生息・繁殖空間を確保する。

第3節 用 水 計 画

1. 計画基準年

基 準 年：1973年（1/10確率渇水年）

決定理由：「水文統計資料〔第14版〕 令和3年8月 新潟県農地部」津南観測所による。

2. 計画かんがい方式

a) かんがい期間

水田（水稻）：5月10日～9月6日（代掻10日間） 計 120日

b) かんがい方式

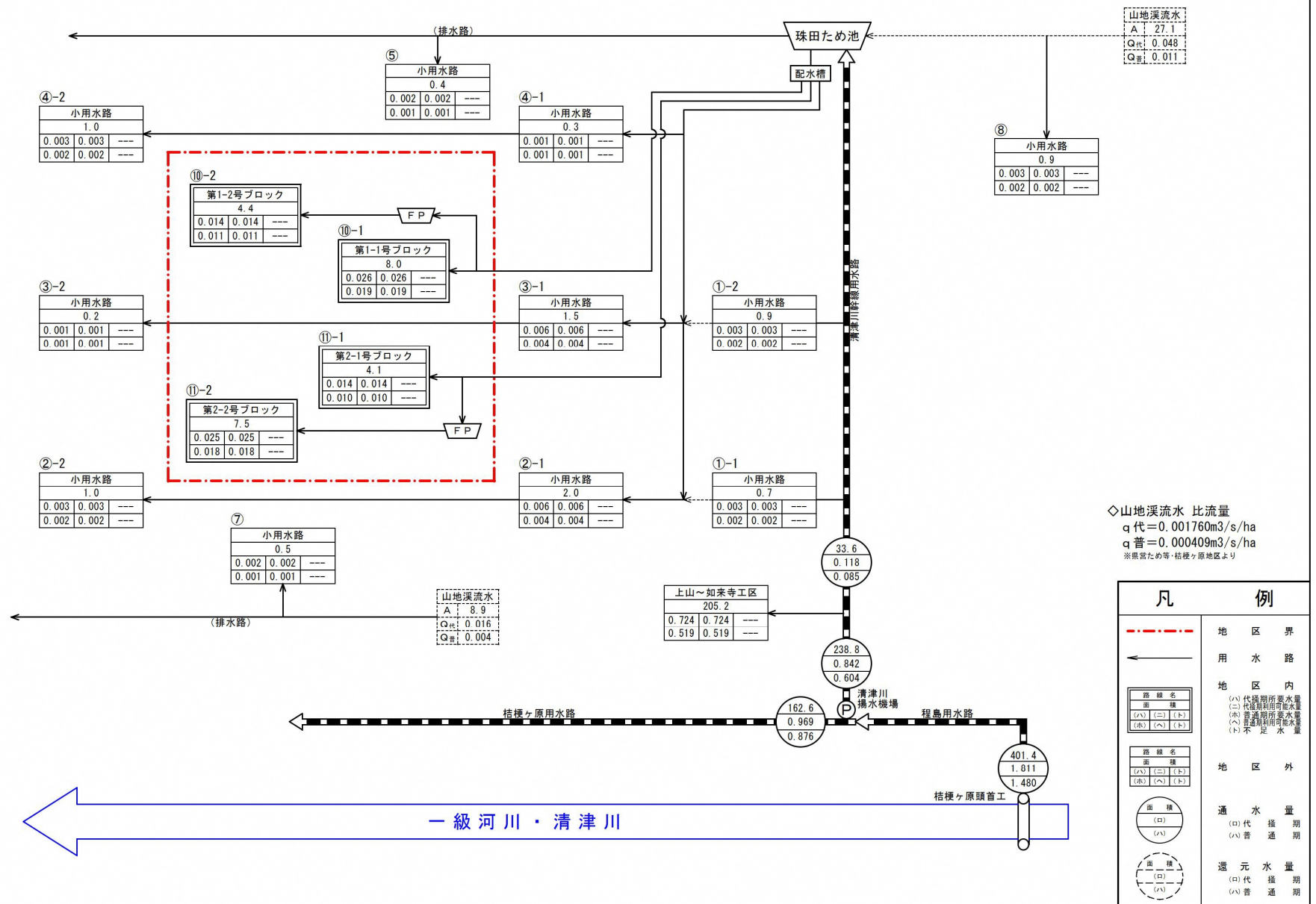
水 稻：一筆毎の田面貯留方式

畑作物：畝間かんがい

3. 計画用水系統（計画用水系統図）

本地区の用水系統は、一級河川清津川→桔梗ヶ原頭首工→清津川揚水機場→清津川幹線用水路→地区内にかんがいさせる。

計画用水系統模式図



4. 計画用水量

系統名	項目 種別	面積 (ha)		水田かんがい			水田畑利用			畑地かんがい			その他		消費 水量 (m³/s)	損 失 率 (%)	粗用水量		備考
		事業名																	
		区 画 整 理	計	普通期	代かき期	面 積 (ha)	1日当たり 計画平均 かん水深 (mm/日)	平均 間断 日数 (日)	面 積 (ha)	1日当たり 計画平均 かん水深 (mm/日)	平均 間断 日数 (日)	面 積 (ha)	計画平均 単位用水量 (mm/日)	面 積 (ha)			平均 単位用水量 (mm/日)	最大 単位用水量 (mm/日)	
				計画平均 単位用水量 (mm/日)	計画代かき 単位用水量 (mm)														
桔梗ヶ原頭首工	農業 用水	22.5 24.0	22.5 24.0	18.6	130(14.4)	22.5 24.0	—	—	—	—	—	—	—	—	0.052	10	0.058	0.079	
計		22.5 24.0	22.5 24.0	—	—	22.5 24.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.058	0.079	

5. 水源計画

(1) 水利用計画

項目 区分		消費水量	有効雨量	純用水量	粗用水量	現況利用可能水量			不 足 水 量		水源依存量		水源 工種	備考
						水源名	取水地点 利用可能量	ほ場利用 可 能 量	純不足 水 量	全不足 水 量	水源名	水 量		
		a (千m³)	b (千m³)	c = a - b (千m³)	d=c/(1-α) (千m³)		e (千m³)	f (千m³)	g = c - f (千m³)	h = d - e (千m³)		(千m³)		損失率 : α
区 画 整 理	水 田 かん が い	479	—	479	533	一級河川・清津川	533	533	—	—	一級河川・清津川	533	管水路	10%
	計	479	—	479	533		533	533	—	—		533		—

第4節 排水計画

1. 計画基準雨量

○基準雨量：最大日雨量 135.8mm/day（1/10確率） 気象庁観測データ（津南観測所）より
最大日雨量 77.6mm/day（1/2確率） //

2. 計画排水方式

a) 単位排水量の決定

区 分	算 定 方 式	基 準 雨 量	流出率	（1/年確率）別	算 出 基 準	単 位 排 出 量
小 排 水 路 （ 水 田 ）	日 雨 量 日 排 除	135.8 mm/日	80 %	1/10年確率	$135.8 \times 0.80 \times 10 / 86,400$	$0.0126 \text{ m}^3/\text{s/ha}$
		77.6 mm/日		1/2年確率	$77.6 \times 0.80 \times 10 / 86,400$	$0.0072 \text{ m}^3/\text{s/ha}$
小 排 水 路 （ 輪 換 田 ・ 畑 ）	4 時 間 雨 量 4 時 間 排 除	79.6 mm/4hr	40 %	1/10年確率	$79.6 \times 0.40 \times 10 / 14,400$	$0.0221 \text{ m}^3/\text{s/ha}$
		50.2 mm/4hr		1/2年確率	$50.2 \times 0.40 \times 10 / 14,400$	$0.0139 \text{ m}^3/\text{s/ha}$
小 排 水 路 （ 山 地 ・ 宅 地 等 ）	合 理 式	43.6 mm/hr	40 %	1/10年確率	$43.6 \times 0.40 \times 10 / 3,600$	$0.0484 \text{ m}^3/\text{s/ha}$
		27.9 mm/hr		1/2年確率	$27.9 \times 0.40 \times 10 / 3,600$	$0.0310 \text{ m}^3/\text{s/ha}$

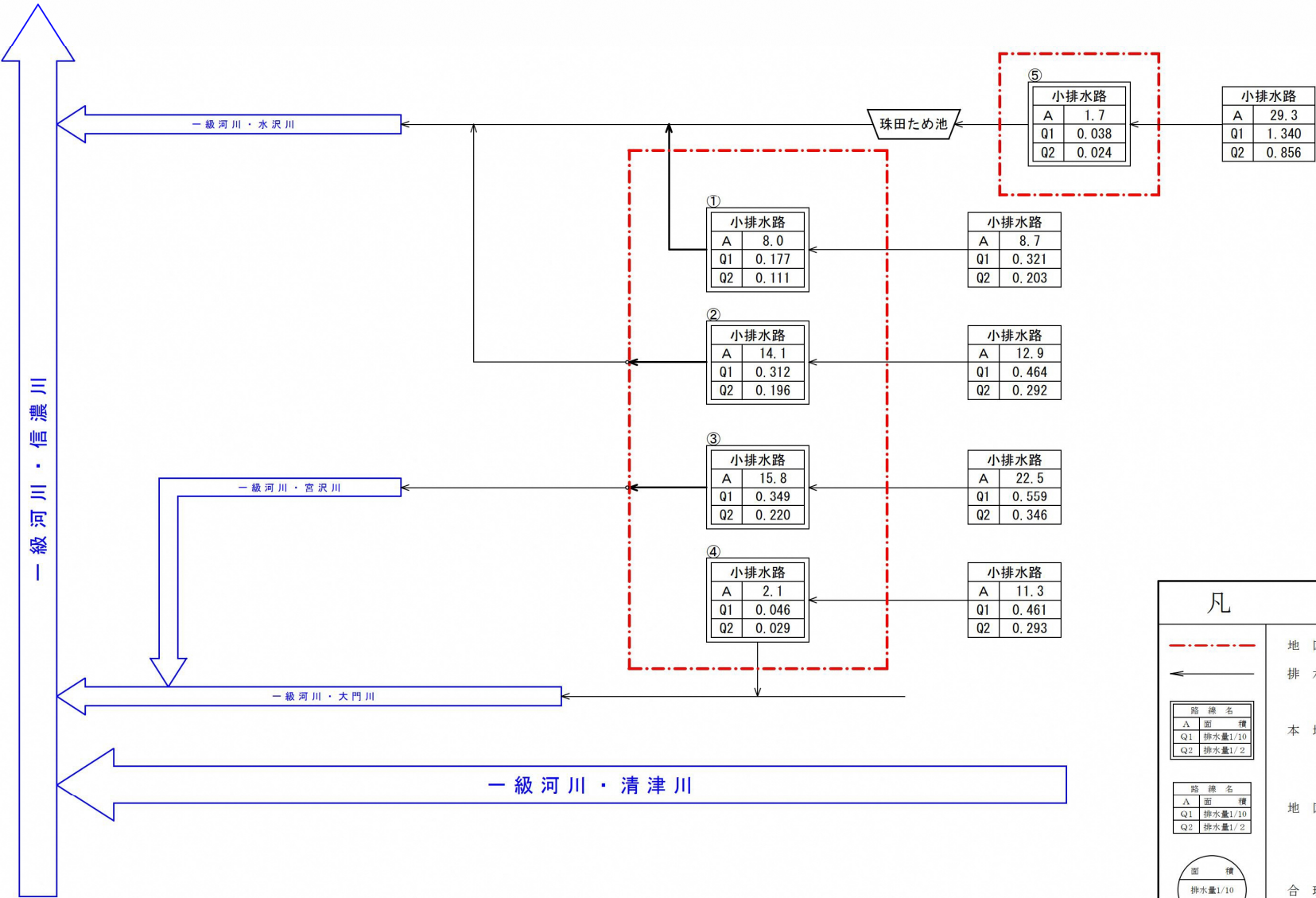
3. 計画排水系統（計画排水系統図）

地区内小排水路→沢を経て→一級河川・水沢川、宮沢川、大門川へ自然排水される。

4. 計画排水量

排水 系統名	項目		受 益 面 積 (ha)		流 域 面 積 (km ²)	基準 雨量 (mm)	降雨による 直接単位流出量 (m ³ /s/km ²)		基底流出量 (m ³ /s/km ²)		全 排 水 量 (m ³ /s)			単位排水量 (m ³ / s /km ²)		備 考		
	事 業 名		区画整理	計			山 地	平 地	山 地	平 地	山 地	平 地	山 地	平 地			山 地	平 地
														自然排水	機械排水			
一級河川・信濃川	40.9 41.7	40.9 41.7	0.580	0.684	135.8	4.84	2.21~ 1.26	—	—	2.809	1.258	—	4.84	2.21~ 1.26				
計	40.9 41.7	40.9 41.7	0.580	0.684	—	—	—	—	—	2.809	1.258	—	—	—				

計画排水系統模式図



凡

例

路線名

A面

Q1排水量1/10

Q2排水量1/2

路線名

A面

Q1排水量1/10

Q2排水量1/2

面

排水量1/10

排水量1/2

地区界

排水路

本地区

地区外

合 理 式

日 雨 量 日 排 除

第4章 工事又は管理の要領

第1節 工事の内容

事業名	工事内容		数量	備考
区画整理	整地工		30.7 31.0 ha	表土扱い、15cm
	道路工	幹線	— km	
		支線他	6.4 km	5.0～4.0(4.0～3.0)m、敷砂利舗装
		連絡道	— km	
	用水路工	幹線	— km	
		支線他	5.9 km	VUφ100～200mm、VPφ100～125mm
		用水施設	1.0 式	FP：2箇所
	排水路工	幹線	— km	
		支線他	4.8 km	HF300×300～1000×800型
	暗渠排水工		17.7 ha	素焼陶管、塩ビ管 φ75～100mm
	客土工		— ha	

第2節 管理の要領

1. 管理者
中里土地改良区
2. 管理すべき施設の種類の等
本事業によって造成された土地改良施設（農道、用排水路、ファームポンド）
3. 管理方法に関する基本的事項
管理者が維持管理計画に基づき管理するものとする。

第5章 換地計画の要領

第1節 換地計画を作成する上での基本的な考え方

本事業の趣旨を踏まえ、農用地の集積・集約化を促進する。また、担い手農家および農業法人へ農用地の集団化を進め、農業経営の合理化及び近代化を図り、地域農業の発展に資するよう換地計画を樹立する。

第2節 換地区の設定

1. 換地区の名称、所在、面積

換地区名	換地区の所在	面積 (ha)
全換地区	十日町市 東田沢、田沢本村、芋沢	40.9 41.7

2. 換地区を設定する理由

該当なし。

第3節 換地計画樹立の基本方針

1. 従前の土地の地積の基準

換地区名	地積の基準
全換地区	換地交付の基準とする従前の土地の地積は、土地改良事業計画決定の日の登記地積とする。 また、上記の日から3ヶ月以内に測量士、測量士補又は土地家屋調査士の測量した実測図及び隣接所有者の同意書を添付して申し出があった場合には、その申し出のあった地積とする。

2. 用途別予定地積

(単位: ha)

換地区名	用途 (取得 予定者) 前後	非農用地区域外に換地する土地											非農用地区域に換地する土地											機能交換に係る土地				一般 国 公 有 地	総 合 計	
		田	畑	山林・ 原野	そ の 他	通常事業施工地 域に含める土地 (令第1条の9 ()書き)			計	本事業によって 生ずる土地改良 施設用地			創設農用地	合 計	特 定 用 途 用 地			異 種 目 換 地	創 設 非 農 用 地					合 計	国	県	市 町 村 他			合 計
						土地 改良 施設	そ の 他	小 計		改 良 区	そ の 他	計			宅 地	そ の 他	計		農 業 経 営 合 理 化 施 設 用 地	生 活 上 ・ 経 営 上 必 要 な 施 設 用 地	公 用 ・ 公 共 用 施 設 用 地	宅 地 等	計							
全換地区	従前の土地	25.3 24.2	4.3 6.0	4.5 4.3	1.3 1.5	1.1 1.3		4.3 4.5	39.7 40.5	-	-	-	-	39.7 40.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.2 1.2	-	40.9 41.7	
	換 地	22.5 24.0	8.2 7.0	-	1.9	-	-	-	32.6 32.9	0.8 0.5	-	0.8 0.5	-	33.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.5 8.3	7.5 8.3	-	40.9 41.7
合 計	従前の土地	25.3 24.2	4.3 6.0	4.5 4.3	1.3 1.5	1.1 1.3		4.3 4.5	39.7 40.5	-	-	-	-	39.7 40.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.2 1.2	-	40.9 41.7	
	換 地	22.5 24.0	8.2 7.0	-	1.9	-	-	-	32.6 32.9	0.8 0.5	-	0.8 0.5	-	33.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.5 8.3	7.5 8.3	-	40.9 41.7

3. 農用地集団化の方針

区 分 換地区名	地帯別、グループ別 団地の設定	個 人 別 換 地 の 方 法		
		位 置 の 選 択 方 法	1 戸 当 り 目 標 団 地 数	区画畦畔の取扱い
全換地区	1. 農用地利用集積促進区域別集団化 担い手農家等の育成及び確保を図るとともに、農用地の利用集積を図る区域を団地化して農用地の面的集積を積極的に進める。 2. 営農グループ別集団化 地区内の担い手農家等が営農を行う農用地はできるだけ集団化を図るものとし、この場合、当該区域に関係する権利者の承諾を得るよう努める。	各人の従前の土地条件（区画形状・日照等）を基準に、意向調査等の結果を踏まえて位置を選定し、集団化を図る。	各農家の農地はできるだけ大規模に集団化を図るものとし、1戸当たりの団地数は、概ね1～2団地を目標とする。	固定畦畔

4. 非農用地の換地方法

該当なし。

第 4 節 土地の評価及び清算の方法

1. 評価の方法
- 標準地比準方法
2. 清算の方法
- 増価額比例地積清算方法

第 5 節 換地計画樹立の年度計画

区 分 換地区名	一時利用地の 指定予定年度	換地計画の 決定予定年度	換 地 処 分 予 定 年 度	備 考
全換地区	令和 6 年度 ～ 令和 8 年度	令和 10 年度	令和 10 年度	

第 6 節 換地処分の特則

換地区内の区画形状の変更に係る工事が全て完了し、確定測量が実施されたときは、土地改良法第 8 9 条の 2 第 1 0 項で準用する同法第 5 4 条第 2 項本文の規定にかかわらず、換地処分ができるものとする。

第6章 費用の概算

事業名 区 分		区 画 整 理 (千円)	(千円)	備 考
主 要 工 事		975,000		
附 帯 工 事		—		
事 業 費		975,000		
工 事 雑 費		17,060		
事 務 費		31,680		
計（総事業費）		1,023,740		
（参考） 関連事業				
	計	—		

単位：千円

事業名等	区 分	工 事 費				工 事 雑 費				地 方 事 務 費			
		国	県	市町村	地元	国	県	市町村	地元	国	県	市町村	地元
区画整理	負 担 率	55.0%	27.5%	10.0%	7.5%	—	100.0%	—	—	—	100.0%	—	—
	負担金額	536,250	268,125	97,500	73,125	—	17,060	—	—	—	31,680	—	—
合 計	負 担 率	55.0%	27.5%	10.0%	7.5%	—	100.0%	—	—	—	100.0%	—	—
	負担金額	536,250	268,125	97,500	73,125	—	17,060	—	—	—	31,680	—	—

第7章 効 用

事業名	区 分	項 目	年総効果（便益）額 （千円）	増加見込所得額 （千円）	備 考 （千円）
区 画 整 理	作 物 生 産 効 果		13,609 13,742	3,338 3,371	$\text{総費用総便益比} = \frac{1,710,271}{1,726,984} = \frac{1,136,606}{1,147,714} = 1.50$
	営 農 経 費 節 減 効 果		76,775 77,525	78,444 79,211	$\text{増加所得償還率} = \frac{5,446}{4,935} \times 100 = \frac{81,867}{82,668} = 6.7\%$
	維 持 管 理 費 節 減 効 果		△ 2,160 △ 2,181	85 86	
	耕 作 放 棄 防 止 効 果		0	—	
	災 害 防 止 効 果		15,874 16,029	—	
	農 業 労 働 環 境 改 善 効 果		4,807 4,854	—	
	景 観 ・ 環 境 保 全 効 果		524 529	—	
	国産農産物安定供給効果		2,354 2,377	—	
	計		111,783 112,875	81,867 82,668	

第8章 他の事業との関係

事 業 名	地 区 名	事業主体	事 業 費	工 期	受益面積 (ha)	本事業との関連
県営かんがい排水事業	市之越	新潟県	265 百万円	R5～R10	238.8	基幹用水

第 9 章 計画概要図

別紙図面のとおり

新潟県 東田沢地区 計画概要図

県内位置図

